

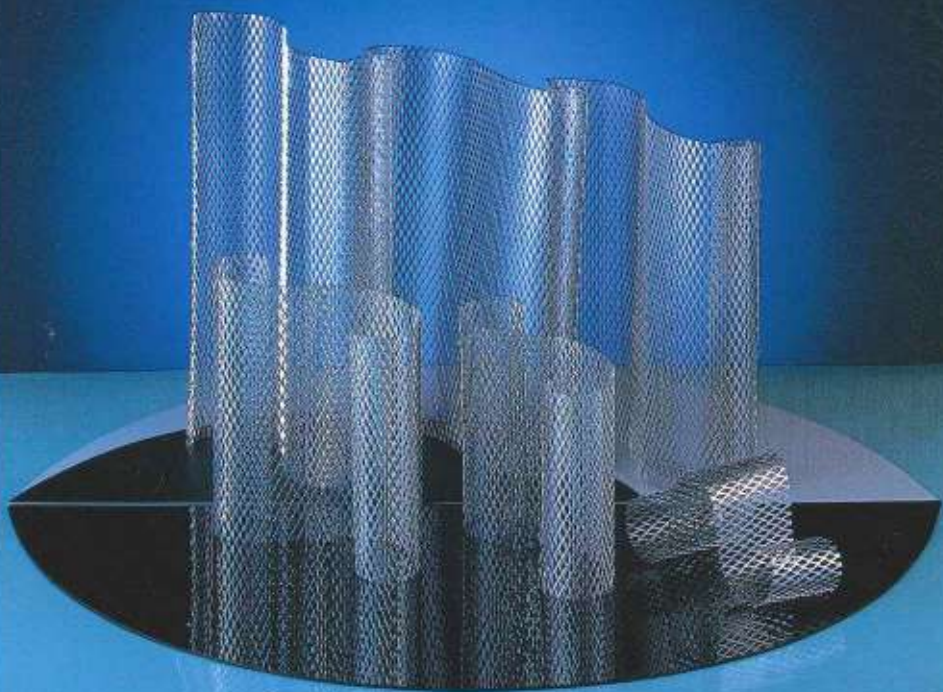
月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

えくてびあん

(EKUTEBIAN VOL.15 DECEMBER 1996 EKUTEBIAN)

12



まい あーと ■ オブジェ「フォーメーション」by 野崎 悦子

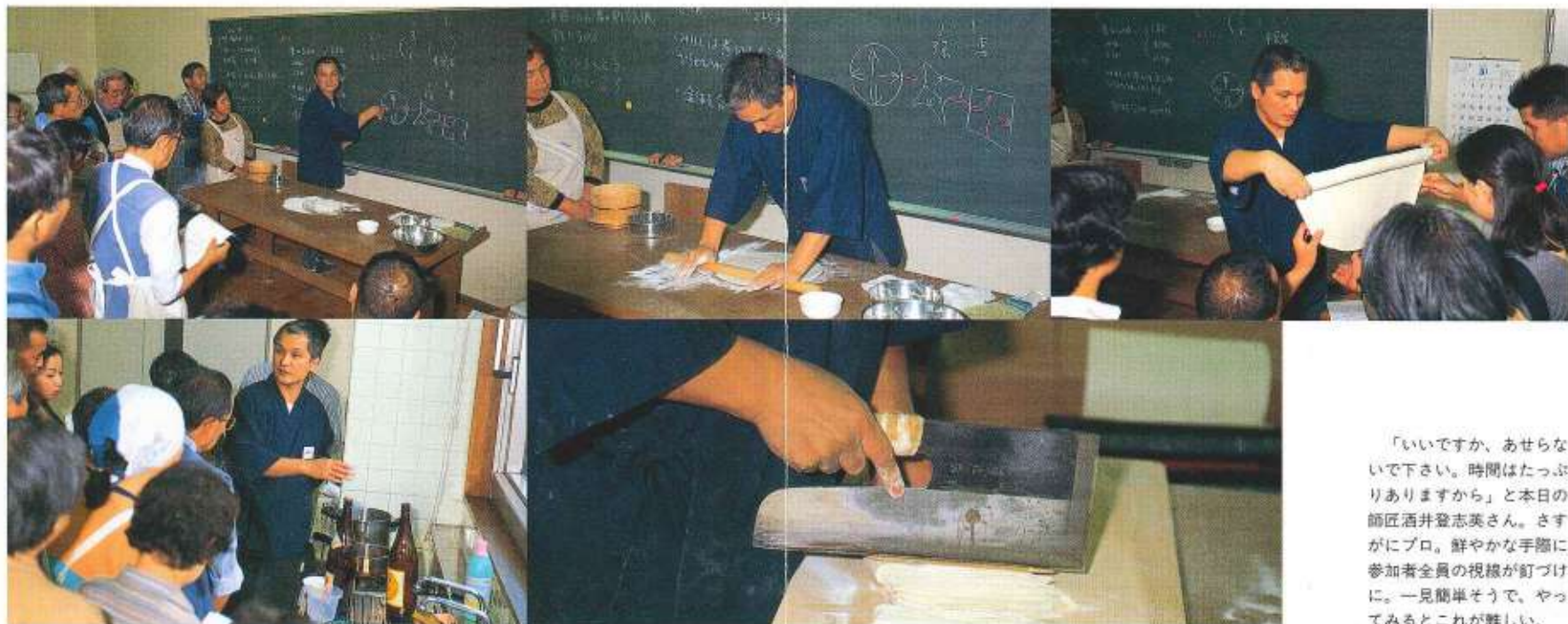
奥多摩町・百尋の滝

奥多摩町、青梅街道から分かれて日原街道に入り、途中の川乗橋から林道をおよそ5キロほど遡ったところに百尋の滝がある。40メートルの落差を持つ滝は、秋色のドレスを纏って川乗山の奥深く抱かれていた。この滝は奥多摩のもっとも奥多摩らしき滝である。林道からおおよそ1時間30分。紅葉狩りのハイカー達は滝壺で足を止め、静かな谷に響きわたる水音と優雅な滝の姿を楽しむ。



林道途中の細倉橋より登山道に入り40分ほどで百尋の滝の滝壺に着く。そのまま林道を登ると滝を一望することができる。

撮影：中村 伸

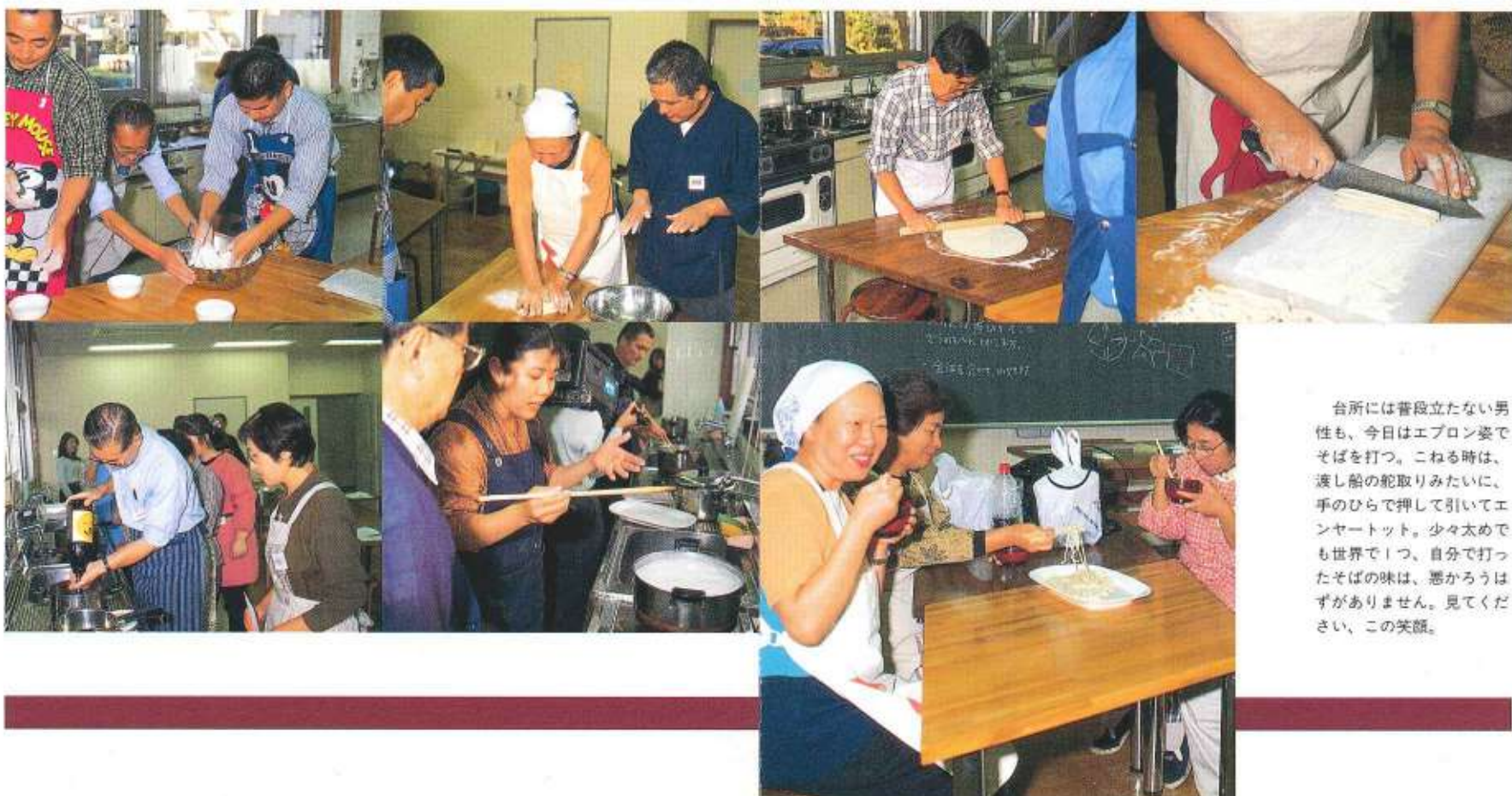


「いいですか、あせらないで下さい。時間はたっぷりありますから」と本日の師匠酒井登志英さん。さすがにプロ。鮮やかな手際で、参加者全員の視線が釘づけに。一見簡単そうで、やってみるとこれが難しい。

えくてびあんレポート

蕎麦打ち名人、誕生か？

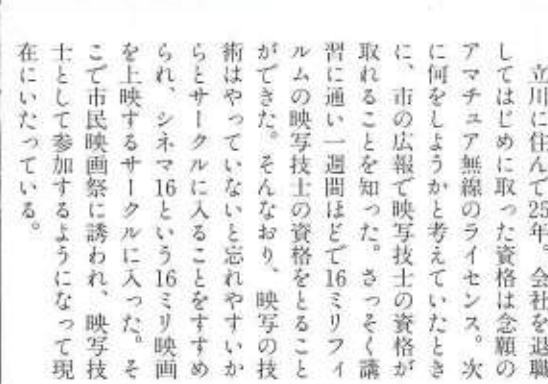
「お日待ち講」というグループが立川で活動している。鈴木茂夫さん（上砂町）が主宰するこのグループの今回の企画は、題して「そば打ち名人研修会」。参加者全員そば打ち“名人”にしてしまおうという大胆なもの。この日の師匠はそば処「信更」の店主・酒井登志英さん（栄町）。幸公民館に鯉だしのいい香りが漂い、いよいよそば打ち開始。額に汗してこねるうち、自分のそばになっていく。打ちたてを口へと運べば味は絶品。そばの楽しさを知った名人たち。



台所には普段立たない男性も、今日はエプロン姿でそばを打つ。こねる時は、渡し船の舵取りみたいに、手のひらで押して引いてエンヤートット。少々ためでも世界で1つ。自分で打ったそばの味は、悪からうはずがありません。見てください、この笑顔。

日本ミニテニス協会創設記念式典から

日本ミニテニス協会創設記念式典から



としも一年 ありがとうございます。 来年もどうぞよいお買い物。 ●京の銘菓から居酒屋グッズ、輸入小物まで● パラエティッシュョップ ジョイフルプラザ JR立川駅南口諏訪通り ☎29-2722	ウオッチング	煙突	表紙は語る まい あーと オブジェ ウォーマーション by 野崎悦子 朝日ギャラリー 銀色に光るメッシーが印象的な今回の作品は、今年9月にルミネ	たといえば「青梅マラソン」のことかな。うなものは、ないだろうか。たとえば、仙台や東京の高円寺のよな「七ツまつり」のものなどはないだろうか。つまり、この立派ではないか。そんな漠然とした考えは、えくてびあんなを創刊してからは、時からずつと暖めていた。名案なんか浮かぶはずもない。発想が考えてくれないかなあ。◆福井県の丸岡町では、全国から「日本短手紙」を募集して大反響があった。第一回「日本短手紙」の手紙。手もとに「家族」があるけれど、この時は六万通を超えた。行事としては大成功であったてでいう。町おこしならぬ「市おこし」のネタは何かなものであらうか。 ◆十年前 立川で「発明」されミニテクニクスが多摩ばかりでなく、東京ばかりでなく、関東ばかりでない、全国規模にくれあがつきた。十一月二日におこなわれ	へも足を運ぶ。「石の作品も、流れるようなデザインが多いですね」見せていただいた作品も、石に曲線を彫ったものをいくつも並べて一つの作品になっている。 タイトルの「ウォーマーション」とは「形づくることだ」という。野崎さんの作品たちが形づくる流れは、女性らしく柔らかい。
	竈やストーブの煤煙を家の外に出す装置を煙突という。北の地方ならば家々に煙突がある光景など当たり前だが、東京で煙突のある家を探すとなるとなかなか見あたらない。竈を使っている家庭はさすがにないだろうが、暖をとるストーブの煙突ならばあるだろうと探したれば、立川にも数軒あった。どうやら暖かい東京では暖房の炎は鑑賞するためのものらしい。気密性の高い家が流行の昨今、人は炎の魅力を忘れ得ないのであろうか。	東風	朝日ギャラリー	◆十年前 立川で「発明」されミニテクニクスが多摩ばかりでなく、東京ばかりでなく、関東ばかりでない、全国規模にくれあがつきた。十一月二日におこなわれ	へも足を運ぶ。「石の作品も、流れるようなデザインが多いですね」見せていただいた作品も、石に曲線を彫ったものをいくつも並べて一つの作品になっている。 タイトルの「ウォーマーション」とは「形づくることだ」という。野崎さんの作品たちが形づくる流れは、女性らしく柔らかい。

真如苑だより

師走。今月もお待ちしています。
日時 12月19日(木)
2時~4時

■御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。
■お申し込みは「えくてびあん・ゴンパニオン」(本誌を手渡してくれた人)へ。

大晦日の夜は真如苑で除夜の鐘を打ちてみませんか。午後10時から午前1時まで。どなたでも境内を参拜できます。鐘のつき手をご希望の方は、当日午後10時半までにお申し込みください。

に及びミニシアター・フレイヤを募集して、前途洋々たる未来をいま見せてくれた◆これからは高齢者社会だと云われて久しい。健康増進に、余暇の活用にとミニシアターが発展してくれたら嬉しい限りだ。『市おこし』にまで伸展すであらうか◆若ぶくれて 見かる時の えくてびあん

(編集) 池田隆雄・小林康史 隔川 理恵 監修 松本わかこ 大須賀久典
山田聖子 松本わかこ 大須賀久典
(写真) 天野聖子 松本わかこ 井上清久
スタジオ269 中村 伸 五三三平

刊えくてびあん 第10号
平成八年十二月一日発行
発行所 えくてびあん編集工房
東京都立川市堀町2-17-15
杉田ビル6F 平90
電話 〇四二五(2) 0082
FAX 〇四二五(2) 1297
編集発行人 立井登介
印刷所 映大廣社

「表紙は語る」とは「彫づくる」ことだということ。野崎悦子の作品たちが形づくる流れは、女性らしく柔らかい。

「石の作品も、流れるようなデザインが多いですね」見せていただいた作品も、石に曲線を彫ったものをいくつも並べて一つの作品になっている。

タイトルの「フォーメーション」とは「形づくる」ことだということ。野崎悦子の作品たちが形づくる流れは、女性らしく柔らかい。

「表紙は語る」とは「彫づくる」ことだということ。野崎悦子の作品たちが形づくる流れは、女性らしく柔らかい。



冬越しをする 昆虫たち

昆虫は、種類によって、越冬の方法が決っている。同じ仲間の成虫が落葉の下や、土の中で、体をくっつけ合って集団で眠るテントウムシやアシナガバチは、殆ど呼吸も停止していて、身体に貯えた脂肪分だけで春を待つのである。塊っているので、体温も高く、凍ることはない。それにひきかえ地上部で越冬する卵、幼虫、蛹は、きびしい寒さに耐えるように出来ていて、例え凍っても、春には元通りになると云うのは驚くべきことである。